

# 1～6月期プラス予想に転換

## ■米國小売りコンテナ、5・6月が増加

全米小売業協会（NRF）とハケット・アソシエイツは現地時間8日、米国主要港における主要コンテナ貨物である小売り関連貨物のコンテナ輸入実績と、最新の予想を公表した。3月の小売り関連コンテナ輸入量は前年同月比0.6%増の216万TEUとなり、プラスに転じた。前月比では13.6%増となった。4月は前年同月比でマイナスとなる予想だが、5月と6月は昨年の関税影響の反動で再び増加し、1～6月期は前年同期比0.5%増の1259万TEUになると想定する。一方、イラン紛争に伴う世界経済の不確実性やインフレ圧力を背景に、7月以降は小売り輸入の減少が続く見通しだ。

NRFとハケット・アソシエイツのデータによると、3月の小売り関連コンテナ輸入量は216万TEUとなり、前回予想比で19万TEU上振れした。4月の予想は前年同月比3.6%減の213万TEUとし、前回予想から5万TEU上振れる。5月は11.1%増の217万TEUで前回予想比8万TEU増、6月は8.2%増の213万TEUで前回予想比3万TEU増となる。7月は7.8%減の220万TEUで前回予想から横ばい、8月は5.5%減の219万TEUで前回予想比1万TEU増、9月は1.3%減の208万TEU

となる。

NRFのジョナサン・ゴールド副会長は、「今後2カ月間（5月と6月）は、昨年の追加関税導入後の急激な輸入減少の反動で増加する見込みだが、足元ではイラン紛争に起因する世界経済の不確実性の中でインフレが進行している。輸入の減少傾向は今後続くともみている」とコメントした。

ハケット・アソシエイツの創設者であるベン・ハケット氏は、「1～3月期のコンテナ輸入量は前年同期比で減少しており、今後の需要も弱まっている。在庫積み増しの停滞と地政学的

な緊張の高まりが、今後の見通しをますます不透明にしている」と述べた。

NRFとハケット・アソシエイツは毎月、米国輸入の大宗を占める小売り関連貨物について、米国主要港の取扱量予想を公表している。同統計は、米国のロサンゼルス港・ロングビーチ港、オークランド港、シアトル港、タコマ港、ニューヨーク/ニュージャージー港、ヴァージニア州の港湾、チャールストン港、サバンナ港、ポートエバーグレーズ、マイアミ港、ジャクソンビル港、ヒューストン港を対象としている。